

< オリンピック・ムーブメント事業 >

JOCオリンピック教室

実施報告書

鹿児島県 鹿児島市立甲東中学校

「オリンピック教室」の実施にあたって

平成21年4月の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会等は、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和7年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 目的： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、
オリンピック自身の様々な経験を通して
「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、
この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、
日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- 事業名： JOCオリンピック教室
- 主催： 公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)
- 後援： スポーツ庁
- 協力： 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対象： 中学校2年生
- 講師： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）※派遣オリンピックはJOCが選定
- 期間： 2025年4月～2026年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数： 80校程度
- 実施方法： クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、
チームワーク、フェアプレー、身体を動かす
ことの楽しさ等を感じてもらいます。



2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、自身が感じた
オリンピックの価値を生徒に伝え、
オリンピックをより身近に感じてもらいます。



1コマ目

運動の時間 / 50分

※実施校の時間割に準じて対応いたします。

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介
学習内容の確認



準備体操



主運動
(作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

座学の時間 / 50分

※実施校の時間割に準じて対応いたします。

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



写真・映像等を使用
した自己紹介
学習内容の確認



オリンピック自身の
経験に基づく「オリ
ンピックの価値」等
を伝える



個人またはグループ
ワークで話し合った
内容を発表



全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です。

※内容はオリンピックによって変動する場合があります。

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

- オリンピック：高平 慎士 先生（陸上競技 短距離）
 【出場オリンピック／アテネ2004大会、北京2008大会、ロンドン2012大会】
- 期 日：2025年11月14日（金）
- ク ラ ス：2年1組／運動の時間

○自己紹介 ～ 授業の目的確認 ～ 準備体操



アテネ2004、北京2008、ロンドン2012の3大会に陸上競技で出場したと自己紹介。運動の時間はオリンピックバリューを意識して取り組んでほしい。1つ目の準備運動は、2人組になり全身を使ってじゃんけんをし、勝った方が相手の周りを1周する。2つ目は、体育館中央のラインを挟んで2人組を作り、先生の合図を聞いて瞬時に自分が追い掛けるか逃げるかを判断する追い掛けっこ競争を実施。

○主運動 等



主運動はボール取り競争を実施（練習3回含む全9回）。体育館中央に置いた7個のバスケットボールを、四方の4箇所の陣地から取りに行き、どの班が早く自陣に3個揃えられるかを競う。ボールは他の班の陣地から取ってもよい。6つの班をローテーションして4班毎に対戦する。複数名でボールを取りに行くことや、1人で複数のボールを持つことは禁止。怪我をしないように注意し、ルールを守って取り組んでほしい。途中、走順や戦略を練るための作戦タイムを設ける。



運動の時間を振り返り、作戦を指示する声掛け等が自然に皆の中から出ていて素晴らしかった。勝敗の決まるゲームなので勝負にこだわることは重要だが、各班が工夫を考えたり声を掛け合ったりすることも大切にしてほしい。当たり前に思えることを当たり前に取り組むことはとても大事なことだ。座学の時間は、運動の時間に皆が感じたことを思い出しながら、日頃の生活等にあるオリンピックバリューと一緒に考えてみようとし、授業終了。

- オリンピック：高平 慎士 先生（陸上競技 短距離）
 【出場オリンピック／アテネ2004大会、北京2008大会、ロンドン2012大会】
 ■期 日：2025年11月14日（金）
 ■ク ラ ス：2年1組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



競技映像とスライドを見ながら自己紹介。小学校6年生の時にアトランタ1996大会を見て、将来自分もオリンピックに出場したいと夢を持った。小学生の時は陸上競技と野球をしていたが、自分が頑張った結果をそのまま自分自身が評価される陸上競技を選んだ。現役最後のコーチをしてくれた恩師は、世界的に活躍した一流選手を育てたアメリカ人だ。当時80歳を超えていたが、自ら走る姿を見せ、情熱をかけて教えてくれた。人種や年齢に関係なく一生懸命取り組む大切さも彼から教わった。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：自分にとってのフレンドシップとは何か考えよう。

発表：「お互いに協力して助け合うこと」「仲間同士で声掛けし励まし合うこと」「友達と協力し合うこと」
 「信頼し合って互いの気持ちを伝え合っている」「友達と助け合って楽しめる関係」「励まし合える関係」
 「部活動」「2年1組」「先輩」「後輩」「学年」「チームワーク」「学校生活における重要な役割」「修学旅行」等



座学の時間を振り返り、皆が発表してくれた意見はどれも間違いはなく、それぞれの人生で大切にしてほしいことだ。オリンピックバリューはオリンピックだけではなく、皆の普段の生活の中にある。今後の授業や生活にもぜひ意識して活かしてほしい。皆は今までの中学生時代とは異なる環境で生きており、大人とは感じ方が異なるかもしれないが、どちらが正しいとは言えない。今皆が感じていることは今後の人生を形成していくので、その時々感性を大切にしてほしいと伝え、授業終了。

- オリンピック：高平 慎士 先生（陸上競技 短距離）
 【出場オリンピック／アテネ2004大会、北京2008大会、ロンドン2012大会】
- 期 日：2025年11月14日(金)
 ■ク ラ ス：2年2組／運動の時間

○自己紹介 ～ 授業の目的確認 ～ 準備体操



アテネ2004、北京2008、ロンドン2012の3大会に陸上競技で出場したと自己紹介。オリンピックバリューは皆の日常にも関係しているため、運動の時間は意識しながら楽しんで取り組んでほしい。1つ目の準備運動は、2人組になり全身を使ってじゃんけんをし、勝った方が相手の周りを1周する。2つ目は、体育館中央のラインを挟んで2人組を作り、先生の合図を聞いて瞬時に自分が追い掛けるか逃げるかを判断する追い掛けっこ競争を実施。

○主運動 等



主運動はボール取り競争を実施(練習3回含む全10回)。体育館中央に置いた7個のバスケットボールを、四方の4箇所の陣地から取りに行き、どの班が早く自陣に3個揃えられるかを競う。ボールは他の班の陣地から取ってもよい。複数名でボールを取りに行くことや、1人で複数のボールを持つことは禁止。フライングをした場合は、1歩下がった位置からスタートする。オリンピックの陸上競技ではフライングをするとその時点で失格になってしまい、それまでの努力が台無しになってしまう。



ボール取り競争の作戦を尋ねると、真ん中のボールに向かわず強い班の陣地を狙った等と答える。それぞれの班が工夫したり話し合ったことが実践できていたことは素晴らしい。ルールを守めることはオリンピックバリューのレスpektに当てはまる。座学の時間は、自分のオリンピック出場の経験談や、運動の時間に皆が感じたことを思い出しながら、オリンピックバリューが日常生活にも沢山あることを一緒に考えていこうと話し、授業終了。

- オリンピック：高平 慎士 先生（陸上競技 短距離）
 【出場オリンピック／アテネ2004大会、北京2008大会、ロンドン2012大会】
- 期 日：2025年11月14日(金)
- ク ラ ス：2年2組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



映像とスライドを見ながら自己紹介。小学校4年生の時に始めた陸上競技を通じて、これまでに沢山のひとと関わり、世界中に友人ができた。北京2008大会の4×100mリレー種目で銅メダルを獲得したが、優勝した国のドーピング違反が10年後に判明し、順位が繰り上がり銀メダルとなった。1人の選手のルール違反によって、多くの人達の人生が大きく変わってしまった。学校やクラスにもルールがあると思うが、ルールを守ることの大切さを改めて考えてほしい。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：自分にとってのフレンドシップとは何か考えよう。

発表：「けんかできる人」「意見を言い合える人」「お互いを信じ合うこと」「高め合ったり協力すること」

「お互いに思いやりを持つこと」「お互いに対等な立場で意見を言い合える」「高め合ったり慰め合ったりすること」

「大変な時に寄り添ってくれる」「協力」等



オリンピックは特別な経験をしていると思うかもしれないが、オリンピック選手が感じるオリンピックバリューは皆が日常生活で経験することと同じだ。今後の生活でもオリンピックバリューを意識し、大切な言葉として活かしてほしい。皆の体験することや感じることを大切に、多感な時期に沢山の経験と体験をして成長して欲しい。皆が自分にとっての基準となるものを見つけ、多様な文化や社会の中で豊かな人生を歩んでいくことを期待していると伝え、授業終了。

■集合写真

・2年1組



・2年2組



■記念品贈呈

・2年1組



・2年2組



■修了証贈呈

